

平成 27 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月

1. 学校概要

学校名 栗島浦小中学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫教育
☐ 中学校 ☐ 中高一貫教育 ☐ 高等学校
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育
☐ 特別支援学校 ☒ その他（小中併設校）

所在地 〒958-0061
新潟県岩船郡栗島浦村 1 6 2

E-mail seabream@iwafune.ne.jp

Website http://iwafune.ne.jp/~seabream/

児童生徒数 男子 15 名 女子 15 名 合計 30 名
 児童・生徒の年齢 7 歳～15 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- ☐ 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ☒ 国際理解
- ☐ 世界遺産
- ☐ 平和・人権
- ☒ 環境
- ☐ 気候変動
- ☒ 生物多様性
- ☐ エネルギー
- ☐ 防災
- ☒ 食育
- ☒ 伝統文化
- ☒ そのほか（ 社会性育成 ）

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

栗島浦小中学校は、離島にあり、中学校を卒業し高校に進学する際には、家を離れ、島外で生活することになる。15の春には、自立を求められるため、社会性の育成が急務である。離島独自の環境を理解し、伝統文化の継承、島民と一体となった活動などが求められる。また、人口の減少を食い止め、学校を存続させるためにも、村や他団体と一体となった取組にも参加する必要がある。今年度末は、全校児童生徒30名中（途中転入含む）島生まれ島育ちの子が7名、しおかぜ留学生9名、移住転入14名という構成になった。そのような中で、今年度行ってきた生活科・総合的な学習の時間や学校行事、児童生徒の活動については以下の通りである。

1. 伝統ある地場産業の体験学習

◇わかめ採り

栗島浦小中学校伝統の行事であるわかめ採りの体験学習を今年度も行った。前年の11月に全校の児童生徒でわかめ養殖用のロープにわかめの胞子をつけたタコ糸を巻き付け、村民の協力を得て、船で沖合に沈めた。わかめ採りは4月8日に実施した。村民や保護者のボランティアの力も借りながら、養殖したわかめをを引き上げ、包丁で切り離し、わかめの葉と茎、めかぶの部位に切り分け、葉は乾燥小屋に干し、翌日中学生が、干してあるわかめをくぎで引き離すわかめ割きを行った。翌々日の夜、保護者と土産物屋の方に協力してもらい、乾燥したわかめを小さく切り分け、商品用に袋詰めを行った。できた乾燥わかめ、めかぶ、茎わかめを販売し、収益を今年度の児童生徒会費として活用した。



◇大謀網体験

6月19日に中学生全員で大謀網体験を行った。漁師の方々のご厚意で、栗島の地場産業である大謀網漁を見学、体験することができた。



大謀網体験の感想

中学生 女子

私は、体験する前は船に酔いそうだったし、魚がくさそうで嫌でした。でも、実際に船に乗ってみると、あまり揺れなくて楽しかったです。マグロや鯛がたくさんいて、マグロは生きているのを初めて見たのでとても良い体験でした。

選別では、漁師さんが分担して魚をてきぱきと分けていたのが印象に残っています。私は、カワハギの皮をはぐのが楽しかったです。

栗島でしかできない貴重な体験ができて、とても感謝しています。

2 小中合同行事・小中連携による社会性育成の取組

◇運動会

9月5日に小中合同運動会を実施した。1学期から合同で準備を進めてきた。総務委員会が中心となり、大会スローガンの作成、小学生が中心となって製作

したマスコット、中学生が中心となって行った応援など毎日遅くまで練習を重ね本番を迎えた。運動会の後の中学生の振り返りアンケートでは、責任を持って役割に取り組んだ生徒の割合が100%、集団で協力したり注意を素直に聞いたりする生徒の割合も高かった。

反面、自分が組に役立っていると感じていない生徒の割合が17%など、自己有用感はまだ高める余地があることが分かった。



運動会の応援合戦

◇文化祭

11月3日に開催した。当日は村の文化祭とも共催であり、村の一大イベントとして多くの村民も学校を訪れた。

当日は、作品の展示のみならず、児童生徒の音楽発表、演劇、PTAによる合唱、また栗島合唱団（一般村民、教職員、小中学生のいずれも希望者）の発表や、物作り教室など多様な催し物が行われた。特に演劇の発表は、9月から2か月近い期間を通して、小道具づくりや演劇の練習に励んだ。文化祭も運動会同様の振り返りアンケートを行った。「責任を持って役割に取り組んだ」「芸術や音楽に親しんだ」「準備や当日の仕事に進んで取り組んだ」生徒の割合が100%と高かった。反面、自分が役立っていると感じていない生徒の割合が29%、みんなと仲良く活動できなかった14%など、仕事や与えられた役割は果たしたものの自己有用感や協調性などに課題が残った。

3 他地域の学校との交流学习

○小学校

◇社会見学（5月20日）

今年度は1・2・3年生が実施した。（5・6年生は新潟市へ修学旅行のため）離島のため、対岸の村上市方面に、社会、生活科、体験学習を兼ねて行っている。村上市内の規模の大きな学校を訪問し、大人数の中で授業を受け、給食を共にし、昼休みにいっしょに遊んでいる。ここ数年は村上小学校と交流を行っており、今年度も訪問させていただいた。

ここ数年ずっと関わっているせいか、栗島浦小の子供たちの顔と名前を覚えてもらっていて、抵抗なく一緒に遊ぶことができた。

◇交流学习（10月7日～9日・2泊3日、小学生全員参加）

〈胎内市の黒川小学校との交流。農家の宿泊体験〉

黒川小学校とは、統合前の大長谷小との冬のスキー学習で交流があり、年1回交流を行っている。離島で冬に閉ざされどこにも行けない環境を変えていこうと昭和63年から山間部の小学校との交流を開始した。冬はスキーで本土の学校に行き、夏は相手の学校を迎え入れ海水浴等を行う。スキーの交流は朝日村の葡萄小と行っていたが、学校が閉校になったため、次の大長谷小との交流を始めた。その後大長谷小の閉校に伴い、相互交流とスキー学習は終了となった。現在は大長谷小の統合先の黒川小学校との交流を続けて3年目となる。内容は秋に農家に宿泊する農泊と学校の授業交流に形を変えた。農家での体験や食事作り、受け入れ家族との触れ合いを通して、社会性を育んでいる。

交流学習で心に残ったこと 小学生男子（要約）

ぼくは、交流学習の思い出が3つあります。

1つ目は、黒川小学校でのことです。児童集会で、300人くらいの中で発表できてホッとしました。とてもきんちょうしました。

2つ目は、森でのネイチャーゲームです。ゲームが楽しかったです。ゲームでかくれんぼをして野生動物の気持ちを体験できたのでうれしかったです。

3つ目は、農家で水ぶろに入ったことです。冷たかったけどおもしろかったです。夕食のごはんがおいしかったし、夜のこわいテレビも、とてもおもしろかったです。

○中学校…関川中との交流学習5月（2泊3日、中学生全員参加）

関川中学校との交流は、前身の関谷中学校と昭和63年に開始し、相互訪問、交流を行ってきた。途中他校との交流をしていた時期もあったが、平成24年5月から現在のような形での交流が再び始まった。今年度は5月に2泊3日で、関川村の旅館に中学校の全校生徒と職員が宿泊した。生徒はそれぞれ学級に所属し、授業や給食、部活動、生徒会行事など、関川中の生徒と同じように学校生活を過ごした。また、夏には関川中の生徒会代表が来島し、キャンプやその他の交流体験を行った。このような学習の機会を生かし極小規模校のハンデを克服し社会性を育もうと考えている。

交流学習を終えて（感想文からの抜粋） 中学生女子

（前略）この交流学習で一番印象に残っているのは、クラスの人が話しかけてくれたことです。卓球を一緒にやってくれたのも嬉しかったけど、私のレベルに合わせてやってくれて、関中の人には優しい人がたくさんいるなと思いました。一番楽しみにしていた卓球は、普段できない練習もたくさんやって大変だったけどすごく楽しかったです。関中の人にはみんな強くてビックリしました。私も関中の人たちみたいに強くなりたいと思いました。

この交流学習はすべてうまくいったと言えうそになるけど、関中の人たちと楽しく、有意義な三日間を過ごすことができて良かったです。関中の人たちに感謝したいです。

4 生活科・総合的な学習の時間

○ 小学校

◇ 1・2年生活科 「馬と仲良し」

学校に近い栗島牧場で飼育している馬について世話活動を行い、乗馬の仕方を学んで実際に馬に乗ったり触れ合いを楽しんだりすることができた。

◇ 前期 3～6年 合同総合 「栗島に住む生き物を調べよう」

児童が興味を持った「栗島で取れる魚・漁」「栗島に住む野鳥」「栗島の馬について」の3グループに分かれて、調査活動を行った。

「魚グループ」は、漁の仕方や取れる魚の種類、過去と現在の取れ高の違いなどについて漁業関係者に聞き取り調査を行いまとめた。

「野鳥グループ」は、栗島が繁殖地である「オオミズナギドリ」について研究をしている名古屋大学の大学院生に講師を依頼し、話を聞いたり、現地に行って巣穴の実態調査を行ったりした。学校にもひなが多く迷い込むため、保護して自然に帰す活動も行った。

「馬グループ」は、昔から島に繁殖していた白い「粟島馬」についての歴史を調べたり、現在のあわしま牧場の馬について世話活動を行ったりした。

11月には、保護者、関係者、村民を招き、総合学習発表会を行った。

◇後期 3・4年総合「粟島のよいところを見つけよう」

粟島元気プロジェクトということで、島民に「粟島のよいところ」についてインタビューを行った。自然豊かで人が良いところがわかり、海を守るポスターや元気にする作戦を、2月の発表会で村民に発表した。

◇5・6年総合「粟島人口増加計画」

人口減少が著しい粟島で暮らす者にとって人口の増加に向けた地域おこしや政策は喫緊の課題である。自分たちでこうすればよいという提案を一人一人が考え、地方創生事業の粟島若者会議という成人を対象とした会議の中で一人一人が提案し、意見をもらった。

子供たちのアイデアは、地域の特性を生かしたつりやワッパ煮、粟島鬼ごっこ等のイベントを行うものが多かった。またそれに伴う予算や材料を見積もり、実現できないか考えた。聞いた村民の反応は総じて温かいものが多く、時期的な問題などを指摘されたものもあった。子供たちは指摘された部分について、もう一度見直し、発表会で発表することができた。この提案が将来実現されることを楽しみにしている。



粟島みらい会議での提案

○ 中学校

今年度、村の「粟島の未来創生事業」の一環として、(株)JTB 総研や一般企業が、中学生のキャリア教育に協力くださることになった。

昨年度末から、企業等と何回か事前協議を重ねて、中学生による「地域の特産品を使った商品開発」を計画し、今年度の総合学習に組み入れた。中学生は、昨年7月から地元の特産品の調査を開始。企業や外部講師の助言を得ながら、「枝豆を使ったアイスクリーム開発」を学習テーマに設定した。

試作品の試食や話し合い活動を繰り返し、アイスマイルをベースに、粟島の枝豆「ひとり娘」を使ったペーストを混ぜることにした。中学生は、村民の方へのリサーチ活動を行い、ペーストの割合を最終的に17%に決定した。また、隠し味に日本海の塩を使用するアイデアも生まれた。

商品にふさわしい商品名・パッケージのデザインも生徒たちが考えた。商品の企画書作りや企業を相手に行った商談体験、流通の仕組みを学び価格を決定するなどの活動を通して、生徒の起業家マインドが育まれた。

商品開発でお世話になった村民へ「感謝の気持ちを伝えたい」という思いから、11月の文化祭に、中学生は試作品を村民に振る舞った。また、販売体験に先立ち、県庁でアイスクリームを県知事に贈呈し、完成記者会見も開いた。生徒たちは、一様にふるさと粟島を愛する気持ちや村民への感謝の言葉を述べた。今回の学習は将来的に粟島で起業するなど、島の活性化を夢見る生徒の未来への扉を開く力となった。



新潟市内スーパーでの販売体験

5 地域とともに

◇島びらきへの参加

毎年、5月2日、3日は粟島浦村の島びらきである。粟島汽船、村役場、民宿・旅館、地域、各企業、学校が一体となって島びらきを行う。事前に会議を重ね、当日訪れた観光客を全員でもてなす。小中学校は、小学校の総合学習の中から生まれた「島っ子ソーラン」を踊る。

今年度も4月から練習を始め、転入した留学生、小学校1年生も含め自主練習を重ね本番を迎えた。

2日、3日の船の到着に合わせて今年も小中学生全員で島っ子ソーランを披露した。大観衆の中、大きな拍手をいただき、終わった後は子供たちの満足げな笑顔でいっぱいだった。



島っ子ソーランを踊る子供たち

◇クリーンアップ作戦

6月21日（日）に、粟島クリーンアップ作戦に参加した。村の主催で、島外からもボランティアをつのり、一緒に活動した。当日、小学生は、ボランティアが到着する港で、歓迎の看板を掲げ中学生は、クリーンアップ作戦で使用するゴミ袋や軍手の配布を行った。また、実際にゴミ拾いに行き、次のような感想を寄せていた。

クリーンアップさくせん 小学生 女子
きのう、クリーンアップさくせんをやりました。
わたしは、もぎきのはまのごみひろいでした。
ごみがたくさんあってひろうのがたいへんでした。
ごみは、うみからながれてきて、いっぱいありました。プラスチックのごみがいちばんおおかった、とおもいました。ライターやペットボトルのふたもおおかったです。
ひろったら、きれいになりました。ひろっているときは、がんばるぞ、というきもちでした。これからもごみをみつけたらひろいたいとおもいました。



また、小中学生単独で、「海岸清掃」や「町はき」というゴミ拾い活動も行った。この活動を通して、環境の美化、きれいな粟島の環境も守るという意識を高めることができた。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ☐ ユネスコクラブの活動として実施
- ☐ その他（

）